



この間の 主な活動を紹介



来年度県予算へ提案

日々の活動で寄せられる声をもとに県内の市町会議員と一緒に計188項目の要望を県へ提出。実現に向け粘り強く訴えます。



これからの「働き方」とは

若者が中心のトーク集會に参加。「給料が安く暮らせない」「残業が多く自分の時間がない」など率直な思いを受け止めました。



ヒバクシャのねがい

原爆死没者慰霊祭に出席。核兵器は生き残った者の人生も奪うもの。被爆者の願いを胸に核廃絶に向けて取り組み続けます。



大切な家族のために

動物愛護フォーラムに出席。災害時のペット同行避難の課題や備えを勉強。皆さんと意見交流もでき、有意義な時間でした。



自分らしさを大切に

別府悦子さんの講演会へ。発達障がいへの理解をきちんと深めることが、一緒に社会で生きていくための近道と知りました。



内ヶ谷ダム建設現場へ

ダムでは「想定外の豪雨に対応できない」と専門家から否定的な意見が。ダムに頼らない効果的な災害対策を提案します。



藍川橋の4車線化実現を

慢性的な渋滞の解消を求め、橋梁建設推進協議会に参加。住民の粘り強い要望が力になり、具体的な計画づくりに入りました。



県庁舎建設案の説明会実現

何度も議会で求め、ついに実現した県民向け説明会に参加。計画案に対し、参加者からは500億円の建設費に多くの批判が。

「スタッフ部屋」より

—追憶— 長崎の地で

8月9日、長崎平和祈念式典に行ってきました。被爆体験の継承が急がれる中、参加する若者の多さに驚きました。世代、国籍を超えて爆心地に集い、犠牲者へ黙祷を捧げる。「悲劇を二度と繰り返さない」という強い意思を会場全体から感じました。中川ゆう子の質問に対し、知事は核兵器廃絶に対する見解を表明しました。核兵器のない平和な世界への一歩になることを信じています。



中川 ゆう子

日本共産党県議会ニュース
一年生県議、奮闘記

今月の一枚

平成30年度から国民健康保険が都道府県事業になります。6月議会で取り上げ、保険料の試算が公開されましたが、軒並み高くなっています。県内の党議員で県担当者を招き、勉強会を開きました。高すぎる国保料は加入者の家計を圧迫。引き下げのため県・市一体で取り組んでいきます。(議会質問の中身は来月号で特集)

2017年12月号
Vol.23MENU

6月議会その1
議会質問より、核兵器廃絶国際署名への知事の見解と関ヶ原ビジターセンターについて特集。

この間の主な活動
中川ゆう子のこの間の主な活動をご紹介します。



公式WEB 検索 中川ゆう子

平和・まちづくり。地域の思いを受けて。

前議会以降、市内13か所で議会報告会を意見交換会を開いてきました。そこで寄せられた貴重なご意見をもとに6月議会で質問しました。中川ゆう子の質問づくりはいつも、地域の思いから出発します。日々の暮らしの中にある、何気ない願いを県政に届けることを何よりも大切にしています。



核兵器廃絶のない世界を目指して

Q、中川ゆう子 現在、ニューヨークの国連本部では、「核兵器全面廃絶につながる、核兵器を禁止する法的拘束力のある協定について交渉する国連会議」が開かれ、歴史上初となる核兵器禁止条約締結に向けて議論が進んでいる。(H29.6.30時点) くりかえされる北朝鮮のミサイル発射は、核兵器開発と一体となった軍事行動であることから、非核化を国際社会全体で迫る上でもこの会議の成功は鍵となる。これを後押しするのが核兵器廃絶国際署名。先日、この国際署名に賛同される団体と被爆者の方が、知事に署名の要請をしたが、どの団体であっても署名はしない旨回答が。署名に応じる、応じないは、個人の意思であるのでここでは触れないが、岐阜県原爆被爆者の会「岐朋会」の皆さんが自らの体験をつづった「私の訴え」という冊子に知事はあたたかいメッセージを寄せており署名の趣旨に対する見解が語られなかったのは残念だった。この署名の主意は「被爆者の思いに賛同するかどうか」だが、知事の見解は？

A、知事 原子爆弾の投下から72年、今なお多くの方が被爆による後遺症と健康不安に苦しんでいる。核兵器のない世界の実現は、唯一の戦争被爆国である我が国のみならず、平和を願う人類共通の願いで、私もそれを切に願っている。しかし、知事として特定の民間団体に対して署名を行うことについては差し控えており、この度の「核兵器廃絶国際署名」につきましても、そのようにした。今後の核兵器のない世界の実現に向けての国際社会における努力と議論の進展を、私自身としても切に願ってやまない。

質問ワンポイント解説

核兵器廃絶国際署名は2017年6月9日現在、全国で**2,963,889**筆集まっています。**13**の県知事含む**663**の自治体首長も署名に応じました。122か国が賛同し核兵器を違法化する核兵器禁止条約が成立し、日本の批准を求める機運が高まっています。しかし、政府は依然核兵器禁止条約にサインしていません。古田知事がこの署名の趣旨に一定賛同を示したことも力にし、日本をはじめ全ての国が条約を批准することを、今後も県民のみなさんと一緒に求めていきます。



▲ 平和行進のみなさんが平岩副議長を表敬訪問



核兵器廃絶署名への知事の見解

国保の都道府県化

県庁舎建て替え

関ヶ原ビジターセンター

中川ゆう子を取り上げたのは、大きく分けて上記の4項目。今号ではそのうち、「核兵器廃絶署名への知事の見解」と「関ヶ原ビジターセンター」について詳しくお知らせします。「国保の都道府県化」「県庁舎建て替え」については、次号以降で特集しますので、ぜひ毎月読んでみてくださいね。



素晴らしい関ヶ原古戦場の魅力を最大限に活かすために

Q、中川ゆう子 今議会には関ヶ原ビジターセンターの敷地拡大のため設計費の増額が提案された。県政自民クラブの代表質問に対し、「建設費はおおむね50億円前後、年間の管理運営費は2億円前後」との答弁が知事からあったが、計画当初に比べ建設費、管理運営費とも2倍以上となる。大切にすべきは、歴史的価値の高い古戦場の景観。どんどん大規模化していくビジターセンターの構想は、古戦場の魅力を半減させる。今後の財政負担を少なくするため、目的や役割をもう一度整理し、施設の規模縮小にむけて取り組む必要があるのでは。

A、観光国際局長 県議会はもとより、有識者や住民らによる懇談会などでこの3カ月間議論してきた。意見の多くは展示の充実や、岐阜・西濃地区の広域観光拠点・歴史文化の学習拠点としての整備を求めるもの。そのすべてに応えることはできないため、優先すべき機能に絞った結果今の「検討案」の規模になった。

Q、中川ゆう子 意見を聞くと欲しい機能がどんどん出てきて、詰め込めば大きくなるのは当然。店舗など必要な機能を街道沿いや街並みに埋め込めば、街中に観光客を呼び込むこともできる。規模縮小のための検討が必要では。

A、観光国際局長 現検討案は、機能の絞り込みなどの検討を重ねてきた結果。これ以上の規模の拡大は考えていない。

Q、中川ゆう子 コストとその必要性とを両方あわせて検討すべき。拡大ではなく規模縮小について答えて欲しい。

A、観光国際局長 財政負担に鑑み、展示エリアを可能な限り確保した現在の検討案の規模としている。

質問ワンポイント解説

規模が2倍以上になることが判明したのは、3月議会での中川ゆう子の質問がきっかけでした。今議会で「建設費は50億円前後」になることが明らかになり、関ヶ原町を巻き込んだ一大プロジェクトと化した本件。住民や議会に全く説明されず進められていることを追及し、規模縮小を再々質問まで求めました。その後の企画経済委員会では、中川ゆう子の主張と同じ意見が委員の総意として出されています。委員長報告の抜粋は以下の通り。

- (1) 関ヶ原古戦場ビジターセンターの整備費用は概ね50億円前後、運営経費は年間概ね2億円前後との見通しがしめされましたが、今後の設計等の中で精査に努めるとともに、イベント等の経費もできるだけ抑制を図りたい。
- (2) 事業費実施にあたっては地元の関ヶ原町とよく協議し、特に施設運営について将来にわたって持続可能な無理のない計画とされたい。
- (3) 今後の施設整備をはじめ各種事業実施にあたっては県議会に十分説明されたい。